

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第42週 (10/14-10/20) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		42週	41週	40週	39週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	27	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	10/14-10/20	10/7-10/13	9/30-10/6	9/23-9/29	10/7-10/13
			42週	41週	40週	39週	41週
小児科	RSウイルス感染症		4 0.22	8 0.44	4 0.22	14 0.78	112 0.84
	咽頭結膜熱		0 0.00	1 0.06	2 0.11	5 0.28	34 0.25
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	26 1.44	19 1.06	24 1.33	20 1.11	291 2.17
	感染性胃腸炎	○	50 2.78	45 2.50	61 3.39	51 2.83	328 2.45
	水痘		2 0.11	0 0.00	0 0.00	2 0.11	31 0.23
	手足口病		30 1.67	28 1.56	42 2.33	53 2.94	254 1.90
	伝染性紅斑		4 0.22	9 0.50	5 0.28	5 0.28	40 0.30
	突発性発しん		11 0.61	9 0.50	11 0.61	9 0.50	41 0.31
	ヘルパンギーナ		5 0.28	9 0.50	14 0.78	11 0.61	69 0.51
	流行性耳下腺炎		1 0.06	1 0.06	1 0.06	5 0.28	15 0.11
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		8 0.29	10 0.37	17 0.61	20 0.71	138 0.65
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	7 1.40	8 1.60	6 1.20	28 0.80
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	2 2.00	0 0.00	0 0.00	7 0.78
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(3件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳未満	ツベルクリン反応等	レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出
結核	男性	70歳代	IGRA検査	-	-	-	-

・第42週は、結核2件(137)、レジオネラ症1件(13)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第42週のコメント

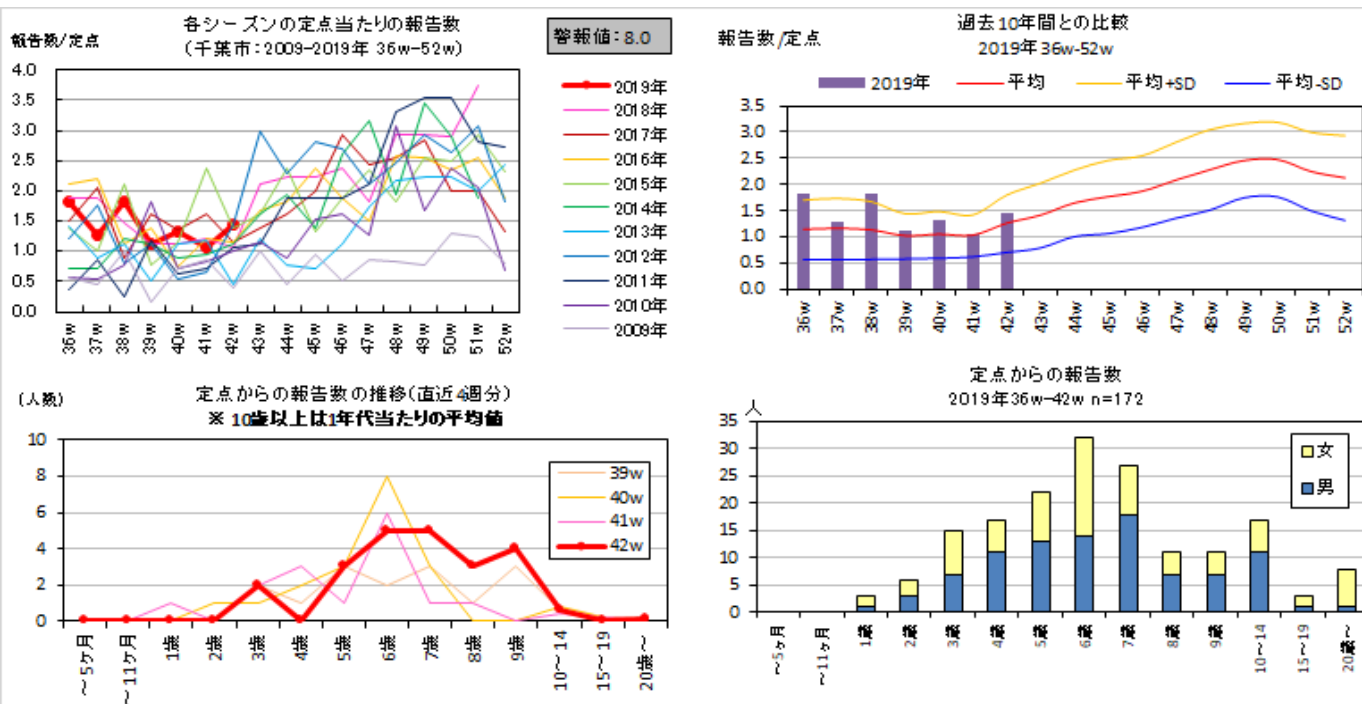
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より若干増加し1.44となった。過去10年の同時期と比べると多め。

<感染性胃腸炎> 前週より増加し2.78となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。例年の発生動向によると、今後増加する傾向。

■ トピック ■

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第41週の定点当たりの報告数は1.68となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鳥取県、山形県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は2.17で、全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第42週は前週より若干増加し1.44となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。例年の発生動向によると、今後増加する傾向にあります。区別の発生状況は、若葉区(3.5/定点)で最多で、同区の7歳及び9歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第42までの累積報告数は172件で、性別では男性が54.7%(94名)、女性が45.3%(78名)となっており、年齢階級別では6歳(18.6%:32名)、7歳(15.7%:27名)、5歳(12.8%:22名)の順で多くなっています。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの第41週の定点当たりの報告数は3.00で、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では大分県、島根県、熊本県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は2.45で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第42週は、前週より増加して2.78となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。例年の発生動向によると、今後増加する傾向となっています。区別の発生状況は、若葉区(8.5/定点)で最多で、同区の6-12か月及び1歳で最も多く発生報告がありました。若葉区は、過去10年の同時期と比べると、年頭から高めの水準で推移しています。今シーズンである2019年第36週から第42週までの累積報告数は385件で、性別では男性が60.0%(231名)、女性が40.0%(154名)となっており、年齢階級別では1歳(23.6%:91名)、2歳(13.2%:51名)、6-11か月(10.6%:41名)の順で多くなっています。

